



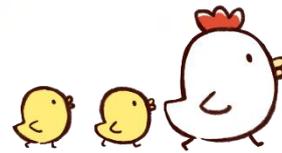
やすき通信

訪問看護ステーション穩

2021年 Vol.5



『我が家はどこですか?』



アルツハイマー型認知症を呈されている A さん。独居で以前は生活も自立されており、近くのスーパーに一人で買い物にも行かれていました。

徐々に認知症の症状が出現し始め、今年に入って団地内で引っ越しをされたこともあり、買い物に行っても新しい自宅の場所が分からず自宅に帰れなくなることがありました。

今回、訪問リハビリが開始となり屋外歩行を実施していくことになりました。

[現在の問題点]

- ・似たような建物が並んでおり、自宅がある棟がどの建物かわからない
- ・エレベーターを降りてどちらの方向に部屋があるかわからない

[プラス面]

- ・部屋番号は覚えている
- ・鍵に「〇棟〇〇〇号室」と書かれた札がついており、わからなくなった時は札をみて確認できる

[対策]

- ・行きと帰りを同じ道にする（短い距離の往復から開始）
- ・目印を決める（看板、ゴミ捨て場、集会所など）
- ・分岐点で進むべき方向を言語的に記憶してもらう（エレベーターを降りて右、左など）

これから、実際に歩行して声掛けや対策に対する反応をみながらアプローチをしていきます。アルツハイマー型認知症では特に経験した出来事に関する「エピソード記憶」が低下することが多いと言われています。症状の進行により、覚えていた記憶も欠損することが考えられるため、症状に応じた対応を検討していきたいと考えています。

理学療法士：高宮舞

第26回神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会に参加して

「認知症とともに生きる方への食の支援～症状の背景を考えよう～」



認知症が進行してくると、今までできていたことが段々とできなくなります。手足を動かすことができても、記憶障害や見当識障害、実行機能障害等の影響で日常生活機能は低下していきます。その中でも、食事は最後の自立行動と言われています。『自分で食事を食べる』ことを続けていくために、私達はどのような介入をしていけばいいのでしょうか？

まずは対象者目線でじっくりと観察することが大事です。なぜ食べることができないのか、本人の視野、世界観を擬似体験して混乱要因を探します。要因が分かったら、次は環境調整です。やすき通信 Vol.4 の“認知症と嚥下”の中でも記載しましたが、やはり環境調整が中心となります。

食べるスイッチを入れる声掛けの仕方（ジェスチャーや動作誘導）、情報をシンプルに調整する（食卓、周囲環境の調整）、配膳の工夫（ワンプレート、コース料理方式、模様のない食器）、慣れ親しんだ食器や食具の使用など、その方に合わせて介入を工夫していくことが食事の自立に繋がっていきます。

今回のセミナーでは認知症の方の食支援について再認識することができました。

認知症の方の世界観を理解し、『自分で食事を食べる』ことができる、食を楽しむことができるよう支援していきましょう！

看護師・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士：藤中雪子

T2のつづき



コロナ禍の影響で講演会やセミナーもオンラインによるweb配信が多くなってきました。穏のスタッフもそれぞれが自分の興味のあるセミナーに参加しています。時間に間に合うように仕事を終わらせ、自宅でゆっくりと参加できるメリットはありますね。

でも、会場で少し緊張感を持ち、勉強した気分になったあの頃も私は好きでした！早くコロナが終息し、またあの気分を味わいたいなあと思ったりしています。

看護師：T2

管理者こだまの一言

早いもので穏に来て、2年が経ちました。たくさんの方々との出会いがあり、そのすべてが私達の宝物となっております。出会いの中で勉強をさせて頂き、スタッフ個々の成長に喜びも感じています。今後は私達からも皆様にお返しができるように日々精進を重ね、より良いサービスに繋げて、寄り添っていきたくと思っています。3年目も引き続き、穏をよろしくお願い致します。

管理者：児玉 恵美子

医療法人優誠会 訪問看護ステーション穏(やすき)

〒811-1314 福岡市南区的場2丁目37-2

TEL：092-589-3011 FAX：092-589-3021